

令和 8 年 火災・救急・救助概要（上半期）

1 火災の発生状況

(1) 火災発生件数と火災による死者、負傷者の数

令和 8 年（上半期）の火災発生件数は 56 件で、火災による死者は 3 人、負傷者は 12 人でした。

	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
火災の発生件数	56 件	62 件	6 件減少
火災による死者の数	3 人	2 人	1 人増加
火災による負傷者の数	12 人	8 人	4 人増加

(2) 火災の種別

火災種別では、建物火災が 39 件と最も多く、全体の 69.6%を占めています。
また、建物火災を用途別にみると、住宅で発生した火災が 23 件と最も多くなっています。

火災種別	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
建物火災	39 件	40 件	1 件減少
車両火災	2 件	3 件	1 件減少
船舶火災	0 件	0 件	—
航空機火災	0 件	0 件	—
その他火災	15 件	19 件	4 件減少

(3) 出火原因

出火原因では、「たばこ」及び「こんろ」が各 7 件で最も多く、次いで、「放火（疑いを含む）」及び「電気機器・装置」が各 5 件となっています。

順位	令和 8 年	順位	令和 7 年
1 位	たばこ こんろ 各 7 件	1 位	たばこ 10 件
		2 位	電気機器・装置 7 件
3 位	放火（疑いを含む） 電気機器・装置 各 5 件	3 位	コード等の配線類 6 件

2 救急の出動状況

(1) 救急出動件数と搬送人員

令和 8 年（上半期）の救急出動件数は 16,160 件で、医療機関に搬送された人の数（搬送人員）は 14,022 人でした。

出動件数、搬送人員ともに昨年より減少となりました。

	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
救急の出動件数	16,160 件	17,045 件	885 件減少
搬送人員	14,022 人	14,510 人	488 人減少

(2) 搬送人員の程度別

搬送人員を程度別でみると、軽症が最も多く、全体の 49.4%を占めています。

程度別	搬送人員	全体に占める割合※
軽 症（入院を必要としない程度）	6,920 人	49.4%
中等症（20 日以内の入院が必要な程度）	6,225 人	44.4%
重 症（21 日以上入院が必要な程度）	716 人	5.1%
死 亡	161 人	1.1%

(3) 搬送人員の年齢別

搬送人員を年齢別でみると、高齢者が最も多く、全体の 65.4%を占めています。

年齢別	搬送人員	全体に占める割合※
新生児（生後 28 日未満）	19 人	0.1%
乳幼児（生後 28 日以上、7 歳未満）	612 人	4.4%
少 年（7 歳以上、18 歳未満）	430 人	3.1%
成 人（18 歳以上、65 歳未満）	3,793 人	27.1%
高齢者（65 歳以上）	9,168 人	65.4%

※全体に占める割合は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも 100%となりません。

3 救助の出動状況

(1) 救助出動件数と救助人員

令和 8 年中の救助出動件数は 385 件で、救助された人の数（救助人員）は 162 人でした。

出動件数、救助人員ともに過去最多となりました。

	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
救助の出動件数	385 件	398 件	13 件減少
救助人員	162 人	189 人	27 人減少

(2) 事故種別

事故種別でみると、建物等による事故が最も多く、全体の 43.9%を占めています。

事故種別	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
火災	11 件	11 件	前年同水準
交通事故	21 件	17 件	4 件増加
水難事故	8 件	9 件	1 件減少
自然災害事故	0 件	0 件	—
機械による事故	4 件	2 件	2 件増加
建物等による事故	169 件	196 件	27 件減少
ガス・酸欠事故	3 件	2 件	1 件増加
破裂事故	0 件	0 件	—
その他の事故	169 件	161 件	8 件増加

(3) 室内閉じ込め救助の状況

近年は、ひとり暮らしの高齢者が施錠された自宅の中で倒れて動けなくなり、家族やヘルパー等の支援関係者が室内に入れないといった事案（室内閉じ込め救助）が増加しています。

また、室内閉じ込め救助には、家人が外出していたものや、室内で寝ていたものなど、結果的に、緊急性のなかった事案も少なくありません。

	令和 8 年	令和 7 年	前年比較
室内閉じ込め救助の発生件数	266 件	288 件	22 件減少
救助出動全体に占める割合	69.1%	72.4%	3.3%減少
緊急性のなかった事案	129 件	135 件	6 件減少

以 上